

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：23804

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K15191

研究課題名(和文)静岡浅間神社江戸後期再建史料に見る建築普請活動に関する研究

研究課題名(英文)A Study of Architectural Activities in Historical Documents on the Late Edo Period Reconstruction of Shizuoka Sengen Jinja Shrine

研究代表者

新妻 淳子(Niitsuma, Junko)

静岡文化芸術大学・デザイン学部・准教授

研究者番号：20814172

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：静岡浅間神社に伝来する現社殿(重要文化財建造物26棟)の「江戸後期再建史料」の調査を実施した。なかでも駿府破損方による60余年におよぶ現場記録『御再建場所日記』に着目して調査・翻刻・分析を進めることで、再建工程の詳細や資材調達、駿府の役人組織、町方・村方の奉納人足としての参画について明らかになった。建築技術的な事項については、史料(古文書・大型古絵図)と建築の両面から検証を行うために、大型の社頭絵図及び社殿の再建設計図の高精度撮影を行い、建造物との比較研究が可能となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

静岡浅間神社では、平成26年より平成・令和の大改修(重要文化財建造物保存修理工事事業)が進められている。江戸後期に再建された現社殿の造営関係史料を調査・分析をすることで、建築普請に関わる建築技術を検証し、保存修理事業に活かすことが可能である。

駿府破損方による『御再建場所日記』は再建の現場記録ではあるが、天気、祭祀、駿府における種々の営みが記載されている。翻刻した基礎資料の多分野での共有を目指すことは、包括的に駿府城下町の基礎構造を解明する大きな手掛かりとなる。

研究成果の概要(英文)：We conducted a survey of the "Historical Materials of Reconstruction in the Late Edo Period" of the current shrine building (26 important cultural property buildings) that have been handed down to Shizuoka Sengen Jinja Shrine. In particular, by investigating, transcribing, and analyzing the "Gosaiken Bashonikki" (Diary of station for reconstruction), a site record of more than 60 years by the Sunpu Victim, the details of the reconstruction process, material procurement, Sunpu officials' organizations, and the participation of towns and villagers as donors were clarified. In order to verify architectural technical matters from both historical materials (old documents and large-scale old drawings) and architecture, high-precision photographs of large-scale company heads and reconstruction blueprints of the shrine building were taken, making comparative research with buildings possible.

研究分野：日本建築史

キーワード：静岡浅間神社 建築普請 江戸後期 再建 日記 駿府 工匠

## 1. 研究開始当初の背景

近世の駿府には駿府城の他、徳川家ゆかりの寺社が所在し、それらの建築普請は江戸幕府の公儀作事として行われた。久能山東照宮の建築普請関係史料から建築普請組織や方式、建築資材の調達、修復関係者の旅宿等、幕府による建築普請の実態が明らかになった。公儀作事への駿府棟梁の関与の様子も判明しつつあるが、彼らを動員する組織については不明なところが多い。本研究では、駿府城下町の北端に鎮座する静岡浅間神社所蔵の中世から近現代までの古文書や古絵図、江戸後期再建に再建された重要文化財建造物 26 棟の造営記録（以下「江戸後期再建史料」）を調査・分析することで、駿府における建築普請活動のさらなる実態を解明しようとするものである。

また、静岡浅間神社では、平成 26 年から約 20 年間の計画で重要文化財建造物の保存修理工事（平成・令和の大改修）が進められている。保存修理工事の機会に建築そのものから明らかになること、現社殿造営に関わる「江戸後期再建史料」にしか表われないもの、互いに連携しながら保存修理工事に活かすための技術的な基礎研究が可能である。

重要文化財建造物の保存修理工事から得られる科学的成果と史料調査から得られる人文的成果を建築学で結び、包括的に解明する意義は大きいと考えた。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、進行中の静岡浅間神社社殿保存修理工事事業に先行して「江戸後期再建史料」の調査・分析を進め、建築普請に関わる建築技術について検証すること、江戸後期駿府における建築普請活動の実態を包括的に解明することである。現社殿の 60 年にもおよぶ駿府破損方の現場記録『御再建場所日記』には、建築普請現場のこと、駿府の工匠および諏訪の彫物大立川一門のこと、天気、祭祀、駿府における種々の営みが記載され、駿府城下町の基礎構造を解明する有力な史料といえる。静岡浅間神社の江戸後期再建について建築学を軸に、歴史学・民俗学の専門家の協力を得て、建築普請の背景となる駿府城下の人々の営みも包括的に検証する。

## 3. 研究の方法

- (1) 静岡浅間神社の「江戸後期再建史料」の中でも『御再建場所日記』60 冊の写真撮影を実施し、保存修理工事に関連する部分を中心に分析を進め、研究成果を保存修理工事に活かす。
- (2) 「江戸後期再建史料」には、「御再建設計図」16 枚、「宮島家文書」46 冊が含まれ、史料の全容把握と、「御再建設計図」の写真撮影を行い、現社殿との比較を行う。
- (3) 『御再建場所日記』の翻刻を行い、歴史学、民俗学、建築学の連携による駿府における建築普請活動の包括的な研究を推進する。

## 4. 研究成果

- (1) 『御再建場所日記』（以下『日記』）調査・分析による研究成果
  - ① 『日記』60 冊の写真撮影を終え、文化元年（1804）～文政 2 年（1819）の 13 冊について翻刻を進めた。翻刻史料集出版の基礎資料となるようデータを整えつつある。
  - ② 『日記』60 冊から天気・災害を抽出し、静岡浅間神社江戸後期天気一覧表の作成を行い、歴史学、建築学の視点で静岡浅間神社の災害記録を分析した。（西田かほる・新妻淳子「静岡浅間神社『御再建場所日記』から見る災害記録 1・2 - 静岡県の歴史的建造物の構造的な性能評価に関する研究 - その 2・3」静岡文化芸術大学研究紀要 Vol. 22）。

駿河国における建築普請活動の研究を進めていく中で、久能山と駿府城、静岡浅間神社では地震の被害状況が異なることが明らかになってきた。江戸後期の災害で注目されるのは安政東海地震（嘉永 7 年（1854））で、駿府も大きな被害を受けたことは、よく知られている。

『日記』によると、嘉永 7 年 11 月 4 日「大地震」とあり、駿府城は「御城中御建物惣潰三曲輪共御石垣崩大変」と大きな被害を受けた。静岡浅間神社を担当する駿府破損方役人も、駿府城の対応に当たった。『日記』の記述が再開されるのは、6 日後のことで、駿府町奉行の静岡浅間神社見分の記事であったが、大きな地震被害に関する記載は見られない。一方久能山では、前浜に 3 度津波が打ち返し、大地震が 5・6 回続き、山上の被害も大きかった。幕府作事方による見分が行われ、修理の予定であったが、安政 2 年（1855）10 月 2 日安政江戸地震の発生により、幕府作事方による久能山東照宮の修理が開始されたのは安政 3 年のことであった。

安政東海地震以前の天保 12 年（1841）にも天保久能山地震が発生している。名称の通り、久能山を中心とした地域での被害は大きかったが、静岡浅間神社の『日記』には「別条無」とあり、翌日も通常通り再建現場は進められている。

静岡浅間神社江戸後期天気一覧表の作成により、地震の他に静岡浅間神社における風向きや雨の傾向なども確認することが可能となった。

(2) 保存修理工事と関連する研究成果  
保存修理工事に先行して『日記』等の分析を進めた。

①2019年度は、神部神社浅間神社回廊の再建工程について『日記』を中心に研究を進めた。回廊は、神部神社側の北回廊、浅間神社側の南回廊の2棟から成り、棟札から文化10年(1813)に新立が行われたことは知られていたが、コの字の回廊2棟がどのような順番でどれだけの工期で建てられたのかは不明であった。そこで『日記』から回廊造営に関わる記事を抽出し、回廊の名称と工程が明らかになった(図1)。神部神社浅間神社拝殿(以下「二階拝殿」)の両脇部分は、神供所・御祈禱所・籠所と呼ばれ、浅間方③→惣社方④と10日程の時間差で並行して普請が進められた。その後、浅間方⑤を建てた後、惣社方⑥に取り掛かったことが判明した。浅間方③では、二階拝殿の天井下張が行われるなど、作業場等に使用されている点についても興味深い。「神部神社・浅間神社回廊の再建工程—静岡浅間神社の江戸後期『御再建場所日記』に関する研究 その2—」日本建築学会大会学術講演梗概集(関東)2020年9月)

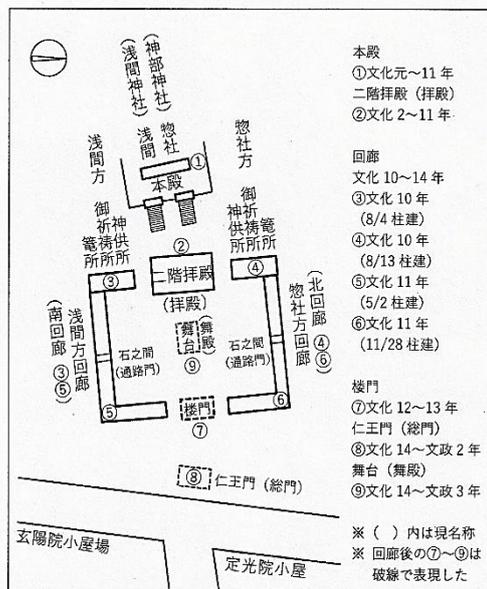


図1 神部神社・浅間神社 配置図と再建工程

②2020年度は、二階拝殿の再建工程について『日記』の分析を行った。神部神社浅間神社拝殿は、江戸時代を通じて「二階拝殿」と称され、絵図や史料にも記載されていることから、本研究では「二階拝殿」と呼ぶ。建立年代については、棟札から文化7年(1810)上棟と知られていたが、『日記』によると10年の工期で建てられたことが判明し(図1)、主要な工程は下記の通りである。

- 文化2年(1805) 着手(地突、木材搬入)
- 文化3年(1806) 木材加工・彫刻開始
- 文化6年(1809) 柱建(8/5)
- 文化7年(1810) 上棟(4/11)
- 文化11年(1814) 竣工

二階拝殿・回廊ともに地突は、駿府の町方・村方が奉納人足として参加した(他の社殿についても同様)。木材は清水湊、安倍川河口の高松浜(静岡市駿河区)、駿府の北東に位置する黒川山(竜爪山)から牛車や荷車で静岡浅間神社へ牽入れられた。石材は、藁科川流域の富厚里村(静岡市葵区)から牛車で搬入されている。静岡浅間神社の再建は、駿府棟梁の下で、駿府の工匠が中心となって行われたが、彫刻は信州諏訪の彫物大工立川一門が担当した。屋根の銅瓦葺の銅板や鋳は、江戸の銅問屋から買い受け、清水湊から馬で搬入し、保管場所には宿直が置かれた。巴唐草等の鋳銅物の加工は、江戸鋳師に駿府鋳師が参画して行っている。銅板の切屑は、駿府城巽櫓で保管され、焼津湊(静岡県焼津市)から廻船で江戸の銅座へ送られている。二階拝殿は漆塗りの社殿で、屋根の銅瓦葺の仕上げにも黒漆が用いられている。『日記』を分析することで、社殿の工程や資材調達、技術、組織、町方・村方の関わり等まで詳細に把握することが可能であり、さらに現社殿と照合しながら研究を進めていく予定である。「神部神社・浅間神社拝殿の再建工程—静岡浅間神社の江戸後期『御再建場所日記』に関する研究 その3—」日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)2021年9月)

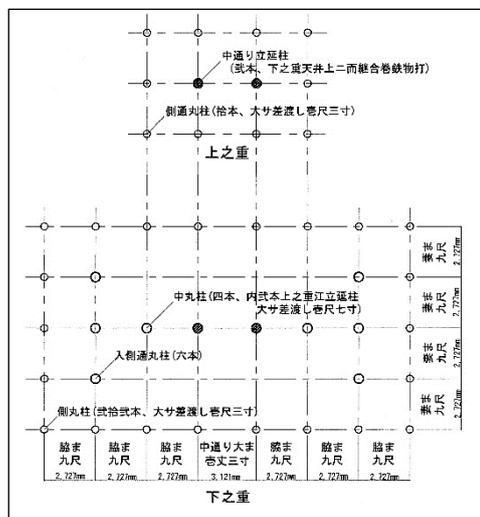


図2 二階拝殿略平面図

③2021年度は、二階拝殿の構造的な特徴について『日記』及び注文帳等の分析と建築調査を踏まえて検討を行った。二階拝殿の建築概要について、注文帳(宮島家文書)から構造形式、柱間寸法、柱寸法等を抽出することができ、寸法については修理工事報告書の図面と合致したことから、図2のように計画し、再建されたことが判明した。構造的な特徴としては、「中通り立延柱」と称する2本の通し柱を中央に配置することである。これは、下之重の天井の上で2本の柱を継ぎ、礎石から上之重の梁まで達している。長大な柱を立て、梁を組み上げていく建前の工程も『日記』から確認でき、二階拝殿は神部神社(惣社方)・浅間神社(浅間方)両社の拝殿であることから、柱建式の際には、両社の側柱1本宛を立てている。その後、下之重の「中通りの立延柱」を立て、上之重の柱をしゃち上げして継ぎ合わせるという段取りであった。また、継手部分と柱脚部分には巻鉄物を打つことが注文帳に記され、建造物調査の際に巻鉄物は確認できている。また、注文帳から木材及び石材の注文寸法、『日記』から納入寸法が判明する。これらの史料から計画と実施の一部が判明し、特異な二階建て社殿を実現するための実際

の構造や技術について、今後、保存修理工事と連携して検証を行う。（「神部神社浅間神社「二階拝殿」の建築－静岡浅間神社の江戸後期『御再建場所日記』に関する研究 その4－」日本建築学会大会学術講演梗概集（北海道）2022年9月）

### （3）静岡浅間神社総合研究報告会での成果発表

静岡浅間神社の調査・研究は、歴史学・民俗学・建築学の専門家からなる静岡浅間神社総合研究会（研究協力者）と協同で実施している。その研究成果を2017年度から静岡浅間神社総合研究報告会で一般市民を対象に発表してきたが、2019年度、2020年度は中止せざるを得なかった。2021年度はオンラインで静岡浅間神社総合研究報告会を開催し、研究協力者2名と研究成果の発表を行った。

第3回静岡浅間神社総合研究報告会「静岡浅間神社と駿府の町」2022年3月5日

- ①「新史料で読み解く駿府用水」柴雅房（富士宮市史執筆員（当時））
- ②「静岡浅間神社の造営と駿府城代松平忠明」増田亜矢乃（静岡市文化振興財団学芸員（当時））
- ③「神部神社浅間神社の江戸後期再建」新妻淳子

神部神社浅間神社を構成する社殿の再建は、文化元年（1804）から文政3年（1820）の17年間の期間で行われ、『日記』より各社殿の工程を抽出して表1にまとめた。①神部神社浅間神社本殿（両本社）と②二階拝殿は、時間差で進められ、③～⑥回廊・⑦楼門の鉦始式は同時に行われるが、⑥回廊の屋根工事に入ったところで楼門の加工に取り掛かっている。その後、⑧仁王門（総門）に着手し、唯一素木造の⑨舞台（舞殿）と共に出来栄見分が行われた。以上で神部神社浅間神社一連の再建を終えるが、⑨舞台と並行して山宮（麓山神社）の再建も開始されている。舞台再建時の祭礼（廿日会祭）については、二階拝殿で行われていたことが『日記』から判明した。

静岡浅間神社江戸後期再建の背景には駿府城下町の営みがあり、報告会では、歴史学からの視点として、生活の基盤「駿府用水」から駿府の地形や用水管理体制、人々の営みについて、静岡浅間神社江戸後期再建を嘆願し実現させた駿府城代松平忠明と再建までの背景について発表された。再建のための資金「浅間金」についても触れられたが、研究協力者とさらに研究を推進し、駿府城下町における建築普請活動を取り巻く社会構造について多角的な研究を進めたい。

表1 神部神社浅間神社 再建工程				静岡浅間神社所蔵『御再建場所日記』より作成		
	①両本社	②二階拜殿	③⑤浅間回廊	④⑥惣社回廊	⑦樓門	備考
享和3年 (1803)	12月 再建命令					★：奉納人足
文化元年 (1804)	2月 新立 8月 清水漆材木奉入★ 11月 建前、12月 柱建、上棟					棟束刻銘 『浅間方日記』
文化2年 (1805)		3月 古材取捨★村方 4月 地突★町方 7月 加工開始				『浅間日記』 『浅間方日記』
文化3年 (1806)	6月 彫刻 7月 唐門彫刻					『日記』
文化4年 (1807)	3月 建具塗	9月 木鼻獅子彫刻 11月 下之重地組 12月 千鳥破風 牡丹・雲彫刻				『日記』
文化5年 (1808)		2月 建具 4月 墓股彫刻 6月 上之重地組				『日記』
文化6年 (1809)		1月 天人・獅子彫刻完成 4月 柱石据方 8月 柱建、下之重・上之重小屋組				『浅間惣社御再建場所日記』
文化7年 (1810)		4月 上棟				※日記欠本 棟札
文化8年 (1811)	10月 銅瓦葺・黒漆塗	11月 上之重銅瓦葺・黒漆塗 12月 上之重塗彩色				『浅間惣社御再建場所日記』
文化9年 (1812)		4月 下之重銅瓦葺 9月 下之重屋根黒漆塗 9月 上之重完成				『浅間惣社御再建場所日記』
文化10年 (1813)	5月 完成 6月 出来栄見分		3月 新始 5月 地突★村方 8月 ③柱建、棧瓦葺 10月 ⑤棟札打付	3月 新始 5月 地突★村方・町方 8月 ④柱建、9月 ④棧瓦葺 10月 ④棟札打付	3月 新始	『浅間惣社御再建場所日記』
文化11年 (1814)		3月 下之重塗彩色 5月 鏡天井絵取付 6月 完成 7月 出来栄見分	3月 地突★町方 5月 ⑤柱建 8月 ⑤棧瓦葺	10月 地突★町方 11月 ⑥柱建		『浅間惣社御再建日記』
文化12年 (1815)				3月 ⑥棧瓦葺	3月 加工 7月 地突★町方・村方 8月 柱石据方 11月 柱建	『浅間惣社御再建日記』
文化13年 (1816)					4月 上棟	※日記欠本 棟札
文化14年 (1817)	⑧仁王門（総門） 1月 新立					棟札 ※日記欠本
文政元年 (1818)						※日記欠本
		⑨舞台（舞殿）				
文政2年 (1819)	1月 銅板葺 3月 上棟 4月 屋根黒漆塗 9月 柱漆塗	1月 加工 4月 地突★ 8月 柱建 9月 彫刻				『浅間惣社御再建日記』 山宮開始
文政3年 (1820)		5月 屋根箱棟黒漆 5月 彫刻取付 7月 出来栄見分				『浅間惣社御再建日記』 廿日会祭 二階拜殿にて 山宮山切削・地形築立
参考文献	拙稿「静岡浅間神社の江戸後期『御再建場所日記』に関する研究」日本建築学会大会学術講演梗概集(北陸)2019年9月					
	拙稿「神部神社・浅間神社回廊の再建工程—静岡浅間神社の江戸後期『御再建場所日記』に関する研究 その2」					
	日本建築学会大会学術講演梗概集(関東)2020年9月					
	拙稿「神部神社・浅間神社拜殿の再建工程—静岡浅間神社の江戸後期『御再建場所日記』に関する研究 その3」					
	日本建築学会大会学術講演梗概集(東海)2021年9月					

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 新妻淳子・西田かほる	4. 巻 22
2. 論文標題 静岡浅間神社『御再建場所日記』から見る災害記録2	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 静岡文化芸術大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 99-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 新妻淳子
2. 発表標題 神部神社浅間神社「二階拝殿」の建築
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 新妻淳子
2. 発表標題 神部神社・浅間神社拝殿の再建工程 静岡浅間神社の江戸後期『御再建場所日記』に関する研究 その3
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新妻淳子
2. 発表標題 神部神社・浅間神社回廊の再建工程 静岡浅間神社の江戸後期『御再建場所日記』に関する研究 その2
3. 学会等名 日本建築学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

第3回静岡浅間神社総合研究報告会「静岡浅間神社と駿府の町」（オンライン開催）2022年3月5日：新妻淳子「神部神社浅間神社の江戸後期再建」

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------